

厚岸町周辺の岩礁潮間帯海藻群集における 有用種の分布パターンとその決定要因の解明

北海道大学大学院環境科学院

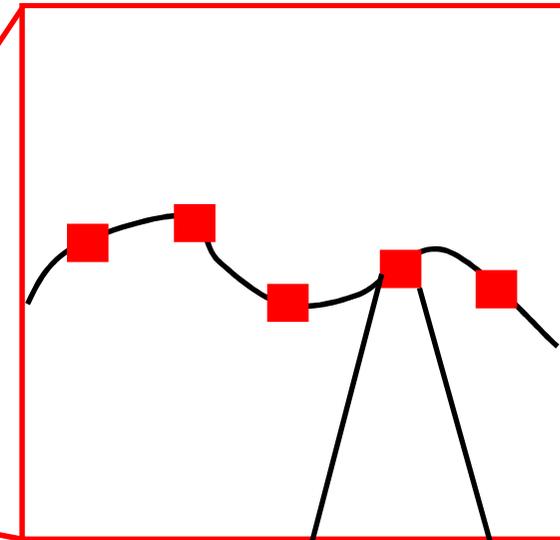
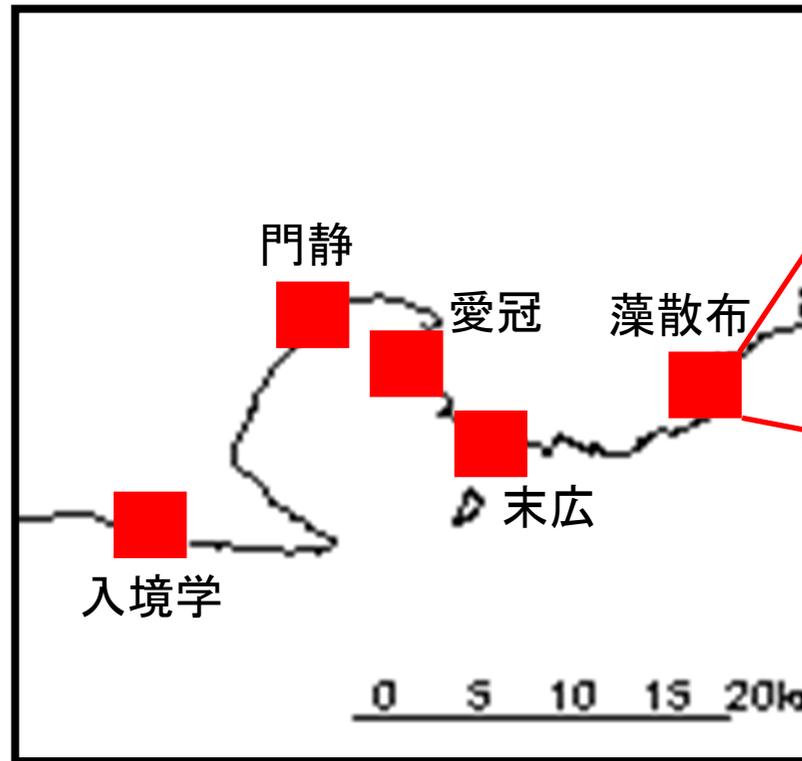
奥田 武弘、萩野 友聡

目的

厚岸町周辺の岩礁潮間帯(磯浜)に生息する海藻群集を調査することによって以下の2点を明らかにした。

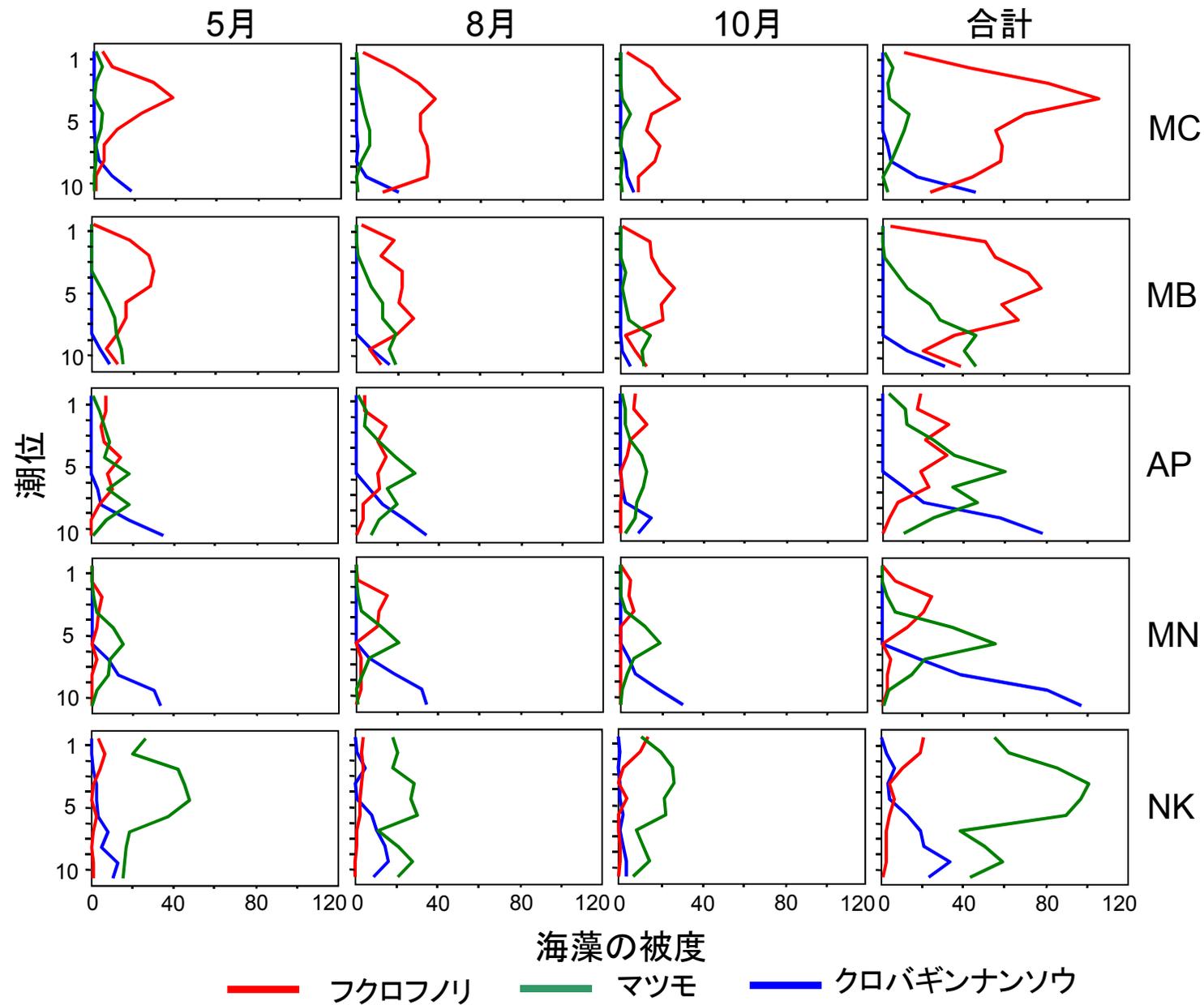
- 1) 有用海藻はどのような分布パターンをしているのか？
- 2) 有用海藻の分布はどのような環境によって決まっているのか？

調査地



- ・5海岸 × 5調査プロット
- ・各調査プロット大きさは縦1m × 横50cm
- ・潮位に沿って縦方向に10等分して調査
- ・各潮位で海藻の被度を測定
- ・調査期間: 2006年5月、8月、10月

結果：有用海藻はどのような分布パターンをしているのか？



結果：有用海藻はどのような分布パターンをしているのか？

- ・厚岸町周辺の岩礁潮間帯に多く生息する有用海藻はフクロフノリ、マツモ、クロバギンナンソウであった。
- ・調査海岸間で海藻の分布パターンを比較すると、西方の海岸ほどマツモが多く、東方の海岸ほどフクロフノリが多かった。
- ・マツモよりもフクロフノリのほうが高潮位に分布していた。
- ・クロバギンナンソウは低潮位に分布していた。
- ・有用海藻の被度には明瞭な季節変異が見られなかった。

結果：有用海藻の分布はどのような環境によって決まっているのか？

海藻の分布パターンと海岸の環境の関係

- ・水温、クロロフィル量、波当たりの強さによって
海岸単位の海藻の分布パターンが決まっていた

海藻の分布パターンと調査プロットの環境の関係

- ・岩表面の温度、波当たりの強さによって
調査プロット単位の海藻の分布パターンが決まっていた
- ・マツモは波当たりの強い場所に分布する傾向
- ・フクロフノリは岩表面の温度が高い場所に分布する傾向